

た ち ば な 新 聞

発行所 宝清寺
〒197-0821
東京都あきる野市小川101
電話 042-558-2663

お盆

七月十三日、十六日
本年は七月十七日(木)十一時より、
本堂にてお施餓鬼法要を厳修致します。
※お施餓鬼法要にご参加希望の方はたちばな新聞に同封
のハガキにてお申し込み下さい。



忘れず、死後は遺骨を奉持して遠く下総から身延山の釈尊のご宝前に得脱を願う、これ無始の業障を消滅し即身成仏の大事を得ると、信仰一如を賛嘆しています。

日蓮聖人は父母への孝養について『忘持経事』に「教主釈尊の御宝前に母の骨を安置し、五体を地に投げ、合掌して両眼を開き、尊容を拝し、歡喜身に餘心の苦しみ忽ち息む。我が頭は父母の頭、我が足は父母の足、我が十指は父母の十指、我が口は父母の口、譬ば種子と菓子と、身と影のいつつ。」と述べています。

このご遺文は父母の遺骨を奉じて身延の日蓮聖人を訪ねた富木氏が、その帰りに持経を忘れたので、日蓮聖人が使いをもって届けさせた時に付した書状で、内容は古今の有名な物忘れ者の例をあげて、富木氏が持経を忘れたことを「日本第一の好く忘れる仁か」とユーモア交じりに教訓し、諸宗が釈尊の本意を忘れたことを破折し、更に、上代の聖者は身命を捨てて仏道を求めたが富木氏は凡夫として父母の孝養を

住職ひと口法話 第八十一回

最近、日々、警察などの公共機関を語る特殊詐欺は依然として深刻で、特に架空料金請求の詐欺が目立ちます。被害者を騙す手法としてSNSや電話転送サービスを駆使して犯罪組織が連携し、組織的に詐欺が行われています。そうした電話での特殊詐欺の対策として、電話が掛かってきた場合、電話の機能を活用して「この電話は録音させて頂いております」とメッセージが流れるよう設定し、対策している人も多いようですが、それでも振込をしようとする人があるのは、詐欺の手口がよほど巧妙なのでしょう。詐欺に対する検挙には警察の協力や新技術を駆使した対策が必要だと思われます。その他にも、盗難・障害・暴行などの犯罪が増え、治安が良いとされた日本でも、防犯カメラの設置・地域のコミュニティの強化など防犯の声が高まっています。こうした犯罪が社会に与える影響が大きい

宝清寺の年中行事

二月節分	厄除け・星祭
三月彼岸中日	彼岸塔婆供養
四月八日	花まつり(灌仏会)
四月八日	オリエンテンプリング
七月十七日	お盆塔婆供養
七月十七日	施餓鬼法要
九月彼岸中日	彼岸塔婆供養
十月十二日	お盆式法要
十二月初旬	お盆金締札

(身延山)のご宝前にご母堂の遺骨を安置して、ご回向を申し上げました。あなたはご宝前に頭と両手・両足を投げ打ち、ひれ伏した後、合掌して両眼を開き、教主釈尊の尊いお姿と法華経の世界に包まれたご母堂のお姿を礼拝し、心ゆくまで大いになる喜びに浸り、自分の心の苦しみは忽ちに消え失せてしまった。

私の頭は父母からいただいた頭であり、私の足は父母からいただいた足であり、私の十本の指は父母からいただいた十本の指であり、私の口は父母からいただいた口である。そして、父母と私との関係はたとえて言う、種子と果実との関係であり、あるいは身体とその影との関係であります。

は勿論ですが、現代社会に蔓延している「モラルの低下」も大きな問題だと思っています。重要な点を挙げると
・公共心の欠如(他人の迷惑を考えることができない)
・自分主義(自分さえ良ければ良いと思ふ行動する)
・社会性を学ぶ機会の欠如

(インターネットやSNSの影響)

・規範の喪失(規範となる大人のモラルの低下)
このような社会構造が、大人も子供も「モラルの低下」に歯止めが掛からない現状を生み出しているのではないのでしょうか。モラルを守るとは、単にルールや法律を遵守する以上の意味を持っていると思います。それは、他者に対して誠実であること、正直で公正な行動を取ることを意味しており、しばしば個人の利益を超えた大局を考慮することが求められます。モラルを守ることが信頼される人間であることの基本であり、それには自己犠牲や自己制御が伴うことも少なくありません。社会生活でお互い尊重しあい、支え合う関係を築くには、モラルの遵守が不可欠です。個人がモラルを理解し生活において実践することが、より良い社会を作る第一歩になるのではないのでしょうか。

身延山の日蓮聖人のもとへ、各地から信徒がはるばる遠くから父や母の遺骨を抱いて訪れました。「日蓮聖人はおん自らの手でご回向いただきました」として「日蓮聖人棲神の聖地・身延の山に遺骨を葬っていただきたい」と願ったからです。佐渡の藤九郎守綱は父なる故阿仏坊日得の遺骨を身延山に葬っています。

このご遺文は身延山の日蓮聖人のもとに母の遺骨を抱いて訪れ、回向を受けて葬った後、帰路についた富木常忍に宛てたものです。常忍の母は、自分の手で縫った着物を、身延山の日蓮聖人に届けるなど、信仰心も篤く、聖人を慕っていた人でした。それだけに、母を喪った常忍の悲しみを日蓮聖人はよく理解していました。

だれでも父や母を送る悲痛を1度は味わわなければなりません。しかし、よくよく考えてみると、私たちの身体は父母から享けた身体です。身体もそうなのですから、心もそのとおりです。ここに母子一体の姿を示され、法華経の救いが、単なるひとりの安心にとどまるのではなく、法華経に包まれた自他合一の世界の救いであることが、きわめて象徴的に示されているのです。

私たちも、全身全霊をこめた自身の信仰と父母や先祖の成仏への真摯な祈りによって、ともどもに教主釈尊のまします法華経の世界の救いを願いたいものです。

お盆を返すに当たってのお知らせ

一 お棚経について
お盆の期間にお檀家のお宅に菩提寺の僧侶が伺い、読経を行うことを棚経と言います。

※今年新盆に当たるお檀家には、当山からお手紙にて棚経のご意向をお訊ねしますので、ご返信をお願い致します。

一 お塔婆の申込について
たちばな新聞同封のお塔婆申込葉書にてお申し込みください。

一 お施餓鬼法要について
本年のお施餓鬼法要は七月十七日(木)十一時から厳修致します。

※たちばな新聞に同封の受取人払い葉書には、お塔婆の申込の他、お施餓鬼法要の出席の方は○印を記し投函をお願い致します。
尚、ご不明な点は管理事務所にお尋ね下さるようお願い致します。

法華経と私たち 第二十五回

薬王菩薩本事品

第二十三②

またこう言った。『一切衆生喜見菩薩よ、わたしは如来の法をお前に委ねよう。また、阿耨多羅三藐三菩提ならびに三千大千の七宝ならびに諸々の宝樹、宝台、及び諸天の侍者たちも、ことごとくお前に委ねよう。わたしの入滅ののちの舍利もお前に委ねよう。この経を流布し、広く供養しなさい。また幾千の舍利塔を建てなさい』
こうして日月淨明德如来は一切衆生喜見菩薩にすべてを委ねて、涅槃に入ったのである。その時一切衆生喜見菩薩は、仏の入滅を悲しみ、また仏を恋慕し、梅檀の薪を積んで仏身を焼いた。焼き終えて舍利を集め、八万四千の壺を作り、八万四千の塔を建てて供養した。そして一切衆生喜見菩薩はこう思った。『こうして供養しても、まだ

足りない。もっと舍利を供養しよう』こう言うと、一切衆生喜見菩薩は八万四千の塔の前で、自分の腕を燃やした。その火は七万二千年燃え続けた。その間、数え切れない人々に阿耨多羅三藐三菩提への発心を起こさせ、現一切色身三昧を得させたのである。

そのとき、天の人と非人と諸々の菩薩たちは、腕のないのを悲しみ、こう言った。『一切衆生喜見菩薩はわれわれの師である。しかるに腕のない不具者になってしまった。どうしよう』これを聞いて、一切衆生喜見菩薩は会衆の前で、こう言って誓いを立てた。『わたしは両腕を捨てたので、必ず仏の金色の身体を得るだろう。もしこのことが本当なら、わたしの両腕は元に戻るだろう』この言葉を言い終わると、両腕はもとに戻った。三千大千世界は様々に揺れ、天から花々が散ったのである。

釈尊は宿王華菩薩にこう言った。

『お前はどのように思うか。この一切衆生喜見菩薩は誰だろう、今の薬王菩薩その人である。菩薩は幾千万億の苦行をし、このように身を捨てて供養したのである。宿王華よ、もし発心して阿耨多羅三藐三菩提を得ようとするならば、手の指、足の指を燈して仏塔を供養せよ。そうすれば、国城、妻子、あるいは三千世界の珍宝を以てするに勝るであろう。また、七宝を以てする三千世界を満たして供養しても、この法華経の一詩句を唱える功德に勝るものはない。もしこの經典を書いて、諸々の香料と香油で供養すれば、無量の功德を得るだろう。もし人あつてこの薬王菩薩本事品を聞けば、無量の功德を得るだろう。宿王華よ、お前にこの薬王菩薩本事品を委ねよう。わたしの入滅の後の末法の世に広く流布し、この経を守れ、この経は世の人の良薬である』この薬王菩薩本事品を聞いた八万四千の菩薩たちは陀羅尼を得、宝塔の中の多宝如来は釈迦牟尼仏により質問をしてくれたと、宿王華を誉めた。

令和七年度管理料納入のお願い

管理料は、毎年一二、〇〇〇円、三月末日が納入期限の前納制になっており、境内や墓所の共用箇所の整備などに使用しています。

令和七年度までの管理料が未納の方は、早めにお納め頂きますようお願い致します。

納入方法

- 一 墓参の折、持参にて納める
- 二 銀行振り込みにて納める

※振り込みの場合の振込先

銀行名 多摩信用金庫 秋川支店
口座番号 普通預金 一五一六二四九
受取人 宗教法人宝清寺代表役員 石井 前琮ぜんそう

三 自動払い込みにて納める

※自動払い込みの場合の手続き方法

- ① 自動払い込みはゆうちょ銀行のみですので、ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方が対象になります。
- ② 自動払い込みご希望の場合は、管理寺務所に指定用紙をご請求頂き必要事項記入後、最寄りのゆうちょ銀行に提出して下さい。
- ③ 引き落としは、毎年四月二十五日になります。

尚、ご不明な点がございましたら、管理寺務所までお問い合わせ下さい。

淨行菩薩 (洗い地藏)



本堂の左手前に小さな淨行堂があり、淨行菩薩をお祀りしています。淨行菩薩は洗い地藏として仏の身体をタワシで洗い浄めることで、病や痛いところを取り除いてくれると、檀信徒のみならず、近隣の方々の祈りの聖地として、早朝よりお参りされる方が多数いらっしゃいます。

淨行菩薩は一般にはあまりなじみがない名前ですが、お釈迦様から末法の世の中に法華経を広めることを命じられた、本化地涌の上行菩薩、無辺行菩薩、淨行菩薩、安立行菩薩の四菩薩の一人で大変重要な菩薩です。四菩薩にはそれぞれ特徴があります。淨行菩薩の「淨」は「淨」という徳（はたらき）を表し、汚れを洗い浄めるように、煩惱を超越するという徳を示しています。このようなことから、淨行菩薩のお身体を洗い浄めながら、一心に祈願することにより、自らの身体の煩惱を滅し、身体を清浄にしてくださる神通力をお持ちの菩薩様で、お地藏様のなかでも最高位に位置する上座の菩薩様です。ご自分の身体の悪い部分を念入りに洗えば、淨行様が身代わりとなって、その苦を引き受けてくださるのです。



淨行堂に千羽鶴やタワシが幾つも掛けられています。これらはご祈願成就のお礼にと人知れず奉納されたもので、病や痛いところ



淨行堂の右脇には絵馬堂があり、当山オリジナルのタワシ付きの絵馬を用意し販売しております。絵馬の起源は古代に遡ります。当時、馬は「神馬」と呼ばれ、神様が下界に降りてくる際の神聖な乗り物とされ、奈良時代頃から、祈願のために神社に馬を奉納するようになりました。奈良時代の「続日本書記」には、神様に生きた馬を奉納したという記述があり、平安時代の「延喜式」には雨を願うときには黒毛の馬、晴れを願うときには白毛の馬を奉納するという記述があります。

しかし、生きた馬を奉納するのは非常に大変なことなので、土で作った馬形や木で作った板立馬が代用されるようになり、奈良時代には木の板に馬の絵を描いた「絵馬」が誕生しました。

絵馬は、古代から続く神聖な儀式の一部として、また、日本文化の一端を担う重要な存在として、今も多くの人々に利用されています。

淨行菩薩様に、ご自分の身体の悪い部分を念入りに洗い、絵馬に、健康祈願や合格祈願、安産祈願や恋愛成就、感謝の気持ちなど、様々な願いごとを記し、絵馬堂に掛け、願いごとが叶ったら、お礼参りをするように致します。

絵馬をご希望の方は管理寺務所にお申し出ください。